



「天使の歌が聴こえますか？」(要旨)

ルカ 2:8-20 説教者 原田憲夫

説教前賛美：教会 F 讃美歌 66 番(1,3) 説教後賛美：教会 F 讃美歌 91 番

今週の聖句：ルカの福音書 2:14

メリークリスマス！

クリスマスにはたくさんを歌う。歌は心を励まし慰めてくれる。今日は心に響く天使の歌と一緒に耳を傾けよう。

【1】主の使い—天使の出現

(1) 「恐れるな」

真っ暗な野原にいきなり現れた眩いばかりの光、そして目に見えない永遠の神に仕える天使が出現した。

(2) 主の使い—天使は驚くべきこと—「大きな喜び」を告げた

「今日ダビデの町で、あなたがたのために救い主がお生まれになりました。この方こそ主キリストです。・・・」(同 2 章 11 節,12 節)

【2】天の軍勢の歌声が・・・

突然、多くの軍勢が現れて神を讃え歌った(この「軍勢」は戦いの武器を持たない)。

「いと高き所で、栄光が神にあるように。地の上で、平和がみこころにかなう人々にあるように。」(同 2 章 14 節)

(1) 「地の上で、平和が」

本来、「聖なる天」と「罪と争いに満ちた地」とは相いれない世界である。だが、「赤子—救い主の誕生」は、この「天」と「地」を結ぶ瞬間となった。救い主は、神に背を向け、闇の中にたたずむすべての人に「神との平和—和解—赦し」(ロマ 5:10)をもたらすためにこの世に来られたのだ。

(2) 「みこころにかなう人々に」

所謂「クリスマスカラー」と呼ばれる色は、赤、緑、白であり、それぞれ「真っ赤な血」「命」「勝利」を表している。「大きな喜びの日」に妙な感じがする。だがここに救い主(キリスト)誕生のメッセージが込められている。

→救い主は、罪と汚れと恥に満ちているすべての人を救うために、その栄光の座を

離れ、すべての罪、過ちを引き受け、ゴルゴタの丘の十字架の上でご自分のいのちをもって贖うためにこの世に来られた。死ぬために生まれたのだ(ピリ 2:6-8。II コリ 8:9 参照)。

「みこころにかなう人々」とは、この「救い主を心に迎え入れる人」である。

【3】羊飼いたちは・・・

この知らせを聞いた羊飼いたちは急いでベツレヘムの村へ向かい、飼葉桶に静かに眠る「赤子—救い主」を捜し当てた。

この出会いは「大きな喜び」を現実のものとした。それは、神から与えられる魂の奥から湧き出す喜びであり、神を讃える歌となった。

「羊飼いたちは、見聞きしたことがすべて御使いの話のとおりだったので、神をあがめ、賛美しながら帰って行った。」(同 2 章 20 節)

【招き】

今日、あなたの耳に天使の歌が聴こえるだろうか？ 平和の歌が、喜びの歌が、希望の歌が、いのちの歌が、勝利の歌が・・・。

eg. 19C-20C の画家ジョルジュ・ルオーの絵に描かれるキリスト；

いずこの家にも救い主キリストは来られた。今日、救いはあなたの家に来たのだ。

飼葉桶のような私たちの心の内に救い主は宿られる！

さあ、私たち—あなたに届けられた「神からの贈り物—救い主」を、羊飼いたちのように純真な心で感謝して受け入れようではないか！

神を讃える人生へ踏み出そう！

(祈り)

